

Eureka X

六年制通信 No.24 令和4年11月4日(金)号

その時の全力を書き残す

10月16日に第二体育館で「入試説明会」を行いました。午前の部も午後の部も大勢の参加者があって、嬉しく思いました。晴れていましたし。私は午前も午後も保護者向けに話をするのですが、その内容をこの通信に書き残しておこうと思います。

・リモートの授業ができるようになり、ギガスクール構想が経産省を中心に広がっていく中で、生徒が集う学び舎としての学校は果たして必要か、そういう話から始めました。私は生徒が学校に通って、自分と同年の多くの「他人」に接することは生徒の成長にとって欠くことのできないものだと考えます。小さな例ですが、まだ言葉も話せないくらいの小さなころ、君たちを愛してやまない祖父母がおもちゃをたくさん買ってくれたでしょう。ボールもあったと思います。部屋の中で君が上手に投げたら、みんなが手を叩いて誉めてくれましたよね。しかし、コップを投げたら「ああ、それはダメ！」と言われるわけです。これ、理解できないですよ、初めのうちは。こんな些細なことを山のように経験して、何がよくて何が悪いか、小さい頃から君たちはいっぱい学んで大きくなってきたのです。家庭内の経験から外へ出て、もっと多くを学び始めるのが学校という場で、そこには親はいません。そこにいるのは親以外に接する初めての大人である先生と同級生だけです。成長段階が微妙に違う同級生に囲まれて学ぶことができる、それが学校のいいところです。君の半歩先あるいは一歩先を行っている同年代を見ることで、親に教えられる以上に早く、先生の言葉よりもよりよく理解していくのです。学校とはそういう場です。

・メディアの発達はとどまる気配がありません。何でも便利に何でも時間をかけずに行うことができるようになっていきます。最近では録画したテレビ番組を倍速で見る人が増えていると聞きました。生徒の持っている機材にも倍速の機能はあります。ただ、倍速で観たり聴いたりすれば、時短にはなるかもしれませんが、人間の理解が倍速で行われるわけではありません。私たちが理解を深め知性を涵養するには時間が必要なのです。便利さや手軽さを求めてはいけな領域があるということです。

・これは前にも書きましたが、メディアの世界では「いいね」か「低評価」の二択の評価を迫られます。そうすると同調圧力に負けて物事をあいまいなまま済ませていく癖がつくのではないかと心配です。100点でも50点でも10点でもとりあえず「いいね」を押しておくような、自分の考えを熟成させないままにしておく習慣は成長の妨げです。わかった気になることとはっきりわかることとは雲泥の差で、「何となくわかる」で学習を終えてはいけません。そうしないためには、小さなことでも自分で考え、

その時々自分の全力の答えを書き残していくことが大切です。実は昔のすぐれた語学書はこの構造をとっているものが多いのですよ。例えば **Life is beautiful.** という英文は誰もが理解できるでしょうが、それは何となくわかっているに過ぎません。いざ日本語にしようとするの大変難しい。辞書には **life** は「生命」「生活」「人生」「活力」など様々な訳語が載っています。「命は美しい」のか「生きるということは美しい」のか「人生は素晴らしい」のか。他にも考えられるでしょうが、どれかを選ばなくてはなりません。今の精いっぱい日本語訳を書き残しておくことが、知性を磨く上で大切なのです。こういう習慣が自分の語彙不足に気づかせてくれます。本を読まなくては、という気持ちにさせてくれます。あいまいに理解している語彙を辞書で確認するようになります。書き残したものを「応募する」ことを私は推奨しています。そうすることで、自分の思考を深める好循環ができるように思うからです。もちろん英語だけではありません。数学でも何でも、目の前の問題にその時々精いっぱいの解答を与える習慣をつけてほしいですね。私も自分の考えをここに書き残しているわけです。

保護者の皆様へご連絡

インフルエンザの場合、学校は出席停止（欠席扱いとはならない）となりますが、そのためには医療機関に「学校感染症による出席停止報告書」（用紙は HP からダウンロード）を作成してもらって、登校可能となった初日に担任に提出する必要があります。

これまではこのような運用でしたが、この冬は新型コロナとインフルエンザの同時流行が懸念されており、医療の逼迫があってはならないとの観点から「学校感染症による出席停止報告書」は作成しない旨、県から要請がありました。従って、この冬は学校感染症のうちインフルエンザに限り、保護者からの学校連絡により出席停止期間を確認することにいたします。医療機関から示された「期間」を担当までご連絡下さい。

今週のおすすめ

・松本博文 『あなたに「指さる」将棋の言葉』（セブン&アイ出版）

将棋界に伝わる格言の数々。「両取り、逃げるべからず」「玉の早逃げ、八手の得」「歩のない将棋は負け将棋」「名人に足跡なし」なども取り上げながら、一流棋士たちの発言とエピソードを紹介した本です。盤面や棋譜などは出てきませんから、将棋を知らない人にも楽しく読めます。勝つか負けるかの勝負を通して紡ぎ出した言葉には、勝負師の凄みを感じます。私たちの人生を支える言葉に出会えるかもしれませんよ。ちなみに私の応援している藤井聡太五冠は「どこまでも強くなりたい」と言っておられますが、これ、他の棋士たちはどんな思いで聞いていたのでしょうか。

話は変わりますが、伊藤園がスポンサーなんですかね、この藤井さんと芦田愛菜さんの対談の企画がありまして、私、観ました。金屏風を背にしてお互い和服で質問を合うのね。猫が好きとか虫が苦手とか、まあそんな答えもあったのですが、その上品なやり取りを、私らジジイは、お見合いやん、まるでお見合いやん、ほんでまたものすごくお似合いやん、めっちゃお似合いやん、と目を細めて眺めておりました。というわけで芦田愛菜さんのファンにもなってしまったのでした。

BGMは Frankie Valli の *Can't Take My Eyes Off You* でした…。